

大会時・コロナ禍での取組

- ・コロナ禍となり、元請会社からの通達を受け取組を開始
- ・2021年：運送会社5社との連携による代替運送で効率化

人の流れ きっかけ 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- オフピーク通勤**・・・配車状況を見ながら調整。3つの出勤時間帯を設定し業務状況等から選択
- 会議等のオンライン化**・・・社内会議は100%オンライン化
社外も元請との定例会議をオンライン化
- 書類等の電子化**・・・帳票関係や請求書等はスキャンした後、メールで送信（他は紙媒体のまま）
本社では電子化が推進中

物の流れ きっかけ 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- リードタイム等の調整**
 - ・配送遅延の可能性がある旨を説明・協力依頼
 - ・通常3日のリードタイムを3.5日や4日に緩和
- 発注数量の調整**
 - ・積載効率の見直しにより配送台数を変更
- 配送のルート変更**
 - ・他運送会社5社と連携し、配送効率が悪いルートを相互に代替運送することで効率化

取組ポイント

- 元請からの通達で取組開始
- 働き方改革の一環としてオフピーク通勤を促進
- 配送センターでは2交代制での時差出勤を導入

取組ポイント

- 元請からの指示により取組検討を開始
- 事前に配送遅延をアナウンス
- 配送センターで在庫ストック
- 配送頻度やルートを見直し、まとめて配送
- 配送量を調整し、配送回数を減少
- 同業他社と連携し対策を検討

今後の取組

人の流れ **継続して取組を実施予定**
(2021年11月現在のヒアリング結果)

- オフピーク通勤**
現在も3つの時間帯から選択しての出勤を継続中
- 会議等のオンライン化**

物の流れ

- 発注数量の調整**

【東京2020大会を振り返って】

- ・無観客開催となり、一般道については、若干渋滞は発生していたが、高速道路は空いていた。交通規制がかかっていた箇所は、閉鎖されており迂回せざるを得なかった。
- ・東京都から提供された情報については、どこに交通規制がかかるか等、ドライバーとの打合せ等でかなり活用した。
- ・東京2020大会やコロナ禍をきっかけに、業界としても物流の効率化に向けた改善策の検討に拍車がかかった。
- ・自社としても、会議等のオンライン化が促進され、より効率化が図られたと感じている。
- ・デメリットとしては、お盆中はその後で稼働しなければならず、社員の休日を変更せざるを得なくなった。逆に、東京2020大会開催中は、製造も運送も稼働率を下げるようにした。